

ワケ カタチには理由がある(G8)

Shape follows Function & Taste

～レジャーネ Re2005 サジタリオ



[↑ Re2001 を前後にぐ〜っと引っ張って、細長くしたような機体w]

[主脚構造が、スピットファイア Mk.22 と大変よく似てます→]

1943年に初飛行したイタリア空軍の機体で、同盟国ドイツから提供されたダイムラーDB605を搭載した戦闘機です。胴体はDB601を搭載したRe2001から再設計されて、細長く伸びて、精悍な外観になりました。主翼は、Re2000由来の楕円輪郭が維持されていますが、

主脚をRe2001の90度回転させて引き上げる方式から、外側に跳ね上げる方式に変更しており(多分、Bf109の影響?)、その点でも全く新しい機体になっています。この主翼デザインの特徴的なところは、跳ね上げた主脚の外側にカバーを付けたところで(Bf109は持っていない)、結果として、スピットファイア Mk.22と同じ珍しい主翼構造となりました。まったく関連がない、他人の空似ですw。なお、速度615km/hを出す優秀な機体であったものの、量産できず48機の完成に留まったのは、同じ枢軸国である日本の烈風などと同じ運命のように感じます。

【模型について】

ポーランドのパブラ(Pavla)の1/72の簡易インジェクションキットです。とてもあっさりした出来で、今なら、後から出たソードを作った方が賢明かもしれません(ソードのキットが出る前ですから、ずいぶん昔に作りました)。ざーっと並べてみたかった、スピットファイア Mk.22が完成したので、引っ張り出して比較してみました。(中川裕幸 2024年3月)